

公開連続セミナー

展示の映画 Le cinéma d'exposition



講師：フィリップ・デュボワ（パリ第三大学映画視聴覚研究科教授・
大阪大学文学研究科招聘教授）

日時：2019年 5/8、5/15、5/22、5/29（毎週水曜日）
16時20分～19時30分（途中休憩 10 分あり）

場所：全学教育推進機構管理・講義 A 棟2階 HALC1 (A212)

※5月15日より教室変更になりました。

※どなたでもお越しいただけます。また、講義はフランス語で行われます（日本語通訳付き）。

この授業では、現代芸術の実践のなかにある、映画の存在形式という特殊な領域を学ぶ。そのことで、「映画」という概念そのもの（一般的な歴史による定義、ほぼ普遍と考えられている装置の形態）への問いかけを行うものである。具体的には、エキスパンデッド・シネマ、映画作家によるインスタレーション、芸術作品における映画の再上映、映画館から美術館、あるいはその他の空間への装置の移動を取り上げ、映画の伝統的な投射価値を、映画イメージの展示価値へ置き換えて考察する。そして、混成的な芸術実践の総体を通して、いかに芸術と映画の間の対話が、20年前から紡ぎ出されてきたのかを理解することを試みる。